

浅田二郎 議員

教員の長時間勤務の解消を

問 「残業が1カ月45時間を超える」と脳・心臓疾患が高まり、80時間は過労死ライン」（厚労省）とのこと。教職員の時間外勤務の状況を、どう把握し、どう認識しているか。

答 今年10月の小学校教員の時間外勤務の平均は48・5時間、中学校教員は72・3時間である。日本の教員の勤務時間は、国際的に見て長い。

問 長時間勤務が子どもたちの教育にも悪影響をおよぼしている。長時間勤務の解消には、国の制度や考え方、県の権限に属することが多いが、市としても努力すべきでは。

答 教員が子どもと向き合う時間や、授業準備の時間を確保することともに、使命感や意欲、充実感を高めながら指導することで、子どもの健やかな成長を実現していきたい。



愛野駅に発着する路線バス

遠距離通学者に助成を

問 愛野駅からの2台のバスは、袋井南小への通学者で満員という異常な状況である。1カ月定期代が3000円程度かかるが、当然、助成すべきでは。

答 市におけるバス通学は、それぞれ路線バスを利用している。バス運行業者に、5路線分、年間約1500万円の補助をしている。

田中克周 議員

生活環境の整備に

おくれはないか

問 市道袋井上貫名線の交通振動がひどい。舗装改修の計画はどうか。

答 根本的な舗装改修が必要と考える。方丈交差点より精密工業団地西入口までの区間につき、路面状況や振動の発生状況により、緊急性の高い区間から、計画的に工事を実施していきたい。

問 袋井地区を流れる排水路（通称「大どぶ」）は、悪臭や老朽化による傷みも激しく、流れも悪い。環境改善をどのように考えるか。

答 住宅密集地を流れる本排水路の改修工事は、現実的には大変困難である。今後は、水の溜まる箇所や破損箇所の補修をし、根本解決に向け、市と地域が一緒に、計画づくりを進めていきたい。

住宅耐震診断の

対象拡大を

問 平成12年の建築基準法改正までに建てた住宅の83%は、耐震性に問題ありとのデータがある。耐震診断の対象を拡大すべきと考えるがどうか。

答 これまでどおり、まずは昭和56年5月以前に建築された木造住宅について、耐震化を積極的に推進していく。耐震診断の対象拡大については、今後検討していきたい。



交通振動が課題の市道袋井上貫名線